



オリエンタル  
コンサルタンツ

野崎 秀則 社長

## 事業投資で地域活性化

「いままで進めてきた重点化事業が実を結んでいる。（中期経営計画ACKG2013強化の最終年度である）2020年に向かって、着実に進めていくことが非常に重要だ」と力を込める。

今期（17年9月期）で創立60周年、節目の年を迎える。「もう一度、会社の経営理念、経営の原理原則、役職員の行動の原

理原則を再構築して、みんな教育していく取り組みを1年くらいかけて行っている」。8月に開く記念式典で、行動指針をオーソライズする。行動指針の基本的なコンセプトは、「全員経営」だ。役職員が「当事者意識を持つ」「協働」「自主自律の精神を持って最善を尽くす」の3点を挙げている。

国内の公共事業は「いままでにも、重点化事業について、将来を見据えながら「企画・実施し、貢献できるものを探し求めている。チャレンジしながら考えている」と意欲を示す。

海外展開は「オリエンタルコンサルタンツグローバル（OCC）に対して、われわれも協働していくことが基本的な方針だ。国内で技術を磨いた人材をOCCに出向させ、仕事をさせていく

の市場規模を、一定水準確保し、てもらうことを期待している。その中でどれだけ貢献できるかだ」としながら「防災、インフラ保全、交通、地方創生など、それぞれの事業で価値のあるサービスを提供できれば、事業は大きくなる」と語る。そのため

ことを継続していく」と語る。また、オリエンタルコンサルタンツの海外事業部として、「自立して仕事をしていくことも並行して行っていく。人材も充実してきており、海外事業を伸ばしていく」としながら「それによって、海外志向の人材に対し

て応えることもできるし、OCCの人材の供給源にもなる」。中長期的な市場見通しは、「重点化事業の軸は25年を見据えても変わらない」とする。「いままでのコンサルタントは委託業務を実施することが中心だったが、われわれが事業に投資をして、地域活性化をしていくモデルが必要になってくる」と見ている。「いまは20年に向かって、行つべきことに実績を積み重ね、真の意味での地域の活性化につながるような事業を展開していきたい」と地方創生にかける思いは強い。

人材の確保・育成では「確保は順調にいつている。育成は試行錯誤しながら進めている」「能力を高めると同時に、推進力」を高めていかなければならない。それは情熱だ。議論しながら進めている」と熱く語る。